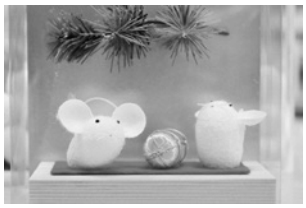
魅せられて、魅せる側へ
シルクフラワーのみらい

まゆの花を見たとき、キラキラした宝石のように感じた小学生の時の気持ちが蘇ってきました。

この美しいまゆの花に秘められた無限の可能性を多くの人に届けていきます。

細井幹子さん（檜原/東京都出身）

日本女子大学を卒業後、米ボストンの大学で経営学を学び帰国。
2017年４月より村上市の地域おこし協力隊に着任。
まゆの花の商品開発や販促に取り組み、今年度で３年目となり任期が終わる。



▲今年の干支「ねずみ」の作品

■まゆの花との出会い

私がまゆの花と初めて出会ったのは、10年ほど前の事です。里山保全などを行うＮＰＯに所属していたことから、高校生の時から村上市高根に年３、４回のペースで通っていました。その際、みどりの里に立ち寄り「まゆの花」の存在を知りました。

都会育ちの私がまゆをすんなり受け入れることができたのは、小学４年生の理科でお蚕様を育てる授業があったからです。朝日地区の小学生の児童と同じように毎日桑の葉をあたえ、週末は家に持ち帰って飼育しました。初めてお蚕様が作ったまゆ玉を見たとき、白くキラキラと光に反射してとても美しく、感動したことを覚えています。そのため、まゆの花を初めて見た時、小学生の時に感じた宝石箱を開けるようなワクワクした気持ちが蘇ってきたのです。

以降、もともとアクセサリー作りなどの細かい作業が好きだったことからすぐにまゆクラフトにはまり、みどりの里に来る度にクラフトキットやまゆ玉を購入していました。

■運命的な再会

一時、グローバルな視点で学びたいとの思いから日本を離れ、アメリカの大学に進み経営学を学びました。面白いことに、日本から離れたことで日本の文化などをより勉強し、伝える機会が多くありました。そのま

▶フラワーアーティストの藪本一翠（いっすい）さんと共作した作品「令和の華」。第52回創作手工芸展（主催：公益財団法人日本手工芸作家連合会）において最高賞の文部科学大臣賞を受賞しました

▲ブーケや花束、ブローチなど、ご予算に応じて製作も承ります

まアメリカでモノ作りとは無縁の業種に就職する予定でしたが、家業の手伝いをしなければならなくなり帰国しました。

1年半ほどで家業の方はひと段落し、以後どのように自分の道を進むのか真剣に考えたときに思い出したのが、NPOの活動で村上市を訪れていたときに感じていた多幸感です。アメリカに戻ることや、都内で就職することが私の人生にとって必ずしも正解であるとは限らないと感じ始めたときに見つけたのが、村上市の地域おこし協力隊の募集の中にある「まゆの花の会」の活動募集でした。

運命的なものを感じた私は、すぐに応募をしました。

■無限の可能性をみらいへ

ありがたいことに採用していただき、活動から半年ほどして感じたのは、この先もまゆの花に関わり続けて生きていきたいと思うほどの情熱でした。まゆの花には無限の可能性が秘められている、この美しさを少しでも多くの人に届けたい、この技術を次の世代の人にも伝えていきたいと思うようになりました。そして、それが使命なのではないかと考えたのです。

▲卒業式に向け、コサージュ作り

そのために私ができることは、国内でも僅（わず）かとなった養蚕（ようさん）文化を絶やさないこと。そして、まゆ玉から作る芸術「まゆの花」を多くの人に知ってもらい、愛でて頂くことです。幸い、任期中にさまざまな分野の人とのご縁があり、コラボレーションさせていただく機会がありました。そのたびに、新たなまゆ玉やまゆの花の魅力を知ることができ、今までまゆの花を知らない人にアピールすることができました。

現在、朝日地区の保育園、小・中学校では、入学式や卒業式などで使われるコサージュにまゆの花を採用させていただいています。まゆの花は朝日地区の特産と考えている人も多いかと思いますが、市の特産として愛していただけるように、できるだけ多くの教育機関でまゆの花のすばらしさを伝える活動をしたいと考えています。

▲まゆを使ったアクセサリーも展開

そして、村上市や新潟県だけでなく、世界に向けてまゆの花の魅力を発信していきたいです。

朝日シルクフラワー製作工房

国道７号沿い「朝日みどりの里（道の駅朝日）」の物産会館隣に朝日シルクフラワー製作工房があります。

○朝日村まゆの花の会
（朝日シルクフラワー製作工房）
〒958－0261　猿沢1215
☎＆FAX：72－0387
〈営業時間〉
午前９時～午後５時
〈休館日〉
毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始

こちらへアクセス

▲外観

▲店内の様子

▲第59回平成15年度蚕糸功労者表彰式において蚕糸功労賞を受賞

養蚕業を生業としてきた文化を継承するため、何が必要かを考えています

横井栄子さん（檜原）

朝日村まゆの花の会会長。小学校などの総合学習や朝日シルクフラワー製作工房でまゆクラフトの普及に努めています

■養蚕業のあゆみ

養蚕業の衰退は、平成6年から急激に進み、現在、新潟県では朝日地区の檜原集落だけで続けられています。

村上市の養蚕の歴史は、江戸後期の寛政時代に村上地区山辺里の小田伝右衛門氏が、西陣の職人を雇い袴地・帯地などの生産を始めたことが始まりです。明治40年には、山辺里村鋳物師で桑の品種改良に成功し、発根しやすく、胴枯病や萎縮病にも強い「山辺里桑」ができました。需要が多かったときは、荒川地区の荒島や神林地区の川部で協業経営体の組織が作られ、新潟県高能率養蚕地域の指定を受けるなど生産は高まっていたほか、朝日地区でも効率的養蚕地域の指定を受け、人工飼料稚蚕飼育所による共同飼育や経営規模の拡大による生産拡大を図っていました。しかし、繭価低迷の歯止めはかからず、現在では工芸や工作用の生産が主となっています。

昭和61年にみどりの里物産会館がオープンし、「まゆの花を特産品にしよう」と、養蚕婦人部を会員として現在の「朝日村まゆの花の会」を立ち上げ、販売を開始しました。順調に売り上げも伸び、物産展に出展するなど、養蚕農家のお母さんがデパートでの販売や講習会に奔走しました。そうした中、マレーシアで養蚕現場を視察したときには、生産コストの違いに驚き、養蚕業の将来を思い、不安に感じたりもしました。

平成8年4月に朝日シルクフラワー製作工房がオープンしてから24年が経ちましたが、まゆに付加価値を付けることで現在7人が養蚕業を続けることができています。

■後継者や生産における課題

朝日地区の小学校では、総合的な学習で蚕の飼育からまゆクラフトの製作までを地域と連携して学ぶ授業があります。最初に行うことは安全に収穫できる桑の木を探すこと。し

▲大きな花を作るために開発された「平面まゆ」。約１畳分の平面まゆを作るために500～600匹の蚕を必要とします

◀稚蚕は卵からふ化して１齢から３齢になるまでの蚕のこと。土室育とは群馬県で考案された稚蚕を飼育する方法の一つで、保温と保湿、換気装置を備えた小部屋の中で育てられる

養蚕農家施設見学の様子（養蚕室）

どむろ

稚蚕

①②シルクフラワーの製作体験を集落の地域の茶の間で開催している様子。興味のある方は人数、予算など、お問い合わせください
③紡ぎ機で真綿から編み糸を紡いでいる作業

かし、簡単に見つけることができるので、この地域が昔から養蚕地帯だったと改めて認識させられます。そのような地域を知る貴重な体験を通して、子どもたちに養蚕の姿を伝えていくことが後継者の育成の第一歩として重要だと考えています。

養蚕業特有の課題もあります。蚕の卵を孵化させて成長をコントロールし、まゆの収量を上げていくため、「どむろ」と呼ばれる建物やその養蚕組合がありました。しかし、現在は福島県の方にお願いしており、この方が廃業された時はどうなるのかと不安に思います。養蚕にも専門の知識が必要で、将来にわたって安定的な生産をしていくことが課題になっています。

■まゆクラフトのこれから

まゆ玉は、絹糸の原材料です。座繰り機で糸にすることは意外と簡単で、出前講座でも体験可能です。まゆ玉クラフトは、まゆをはがす作業と、カットする作業を多彩に重ねることで表現する工芸です。まゆ玉をカットした際の展開図を思い描くことで、思いどおりのまゆの花が表現できます。今後は、蚕の吐糸をコントロールすることでできる「平面まゆ」をどのように生かし、製品化できるかが鍵になると考えています。

私たちは、常にお客さまに寄り添い、喜んでいただくことを何よりも大切にしており、それが私たちのやりがいや満足感となって、34年間もこの仕事を続けてくることができました。今後も日々進化し続けることができるよう「まゆ」という素材に出会えたことに感謝し、誇りを持ちながらこの地域の養蚕を守っていこうと思います。

「朝日村まゆの花の会」会員の新作発表を行います。また、小川・朝日みどり・朝日さくら小学校の３年生が総合学習で作成したまゆの作品も展示します。皆さんのお越しをお待ちしています。

■と　き　２月20日㈭～３月８日㈰
午前９時～午後５時

■ところ　朝日みどりの里物産会館

●問い合わせ
朝日シルクフラワー製作工房
☎72－0387